

平成31年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定) (平成31年度改定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①・教育課程の編成に工夫を凝らし、生徒の学習意欲と学力向上に取り組む。</p> <p>・舞台芸術科設置準備を迅速に進める。</p> <p>②国際社会で生き抜く高い人格と心豊かな感性を備えたグローバルリーダーの育成に取り組む。</p>	<p>①・生徒の主体的な科目選択と個性の伸長に資する教育課程を編成する。</p> <p>・令和3年度学科改編にあたり、普通科と舞台芸術科相互の融和が図られるような教育課程の編成を行う。</p> <p>②・グローバルな問題意識で生徒が学習に取り組めるよう、教科横断的な取り組みを進めて授業改善を行う。</p> <p>・グローバル教育研究推進校として効果的なプログラムを検討する。</p>	<p>①・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、本校の特色を活かす教育課程について教科横断的な視点を持って、学校全体で検討を行う。</p> <p>・セメスター制については、学科改編の時期を見据えて、前年の検証結果を活かした効果的な導入を検討する。</p> <p>②・「問い」を立てるとい問題意識を高めるため「総合的な探究の時間」と、各教科の授業の見直しを図り、授業研究を行う。</p> <p>・国際交流等について検討し、より良いものに改善する。</p>	<p>①・教科横断的な視点が加わった教育課程が編成できたか。</p> <p>・新学科と普通科の融和に考慮した教育課程が編成できたか。</p> <p>・セメスター制導入の検討は進んだか。</p> <p>②・教科横断的な研究授業等の取組みが増えたか。</p> <p>・効果的な授業研究会が組織的に実施できたか。</p> <p>・国際交流等について効果的な改善ができたか。</p>	<p>①・体育の科目選択について見直し、改善したことにより、教育課程編成の課題を解決した。</p> <p>・普通科と舞台芸術科生徒が相互に刺激しあって学べる教育課程を編成した。</p> <p>・集中講座も含めてほとんどの科目を半期認定している。</p> <p>②・学校で統一した研究テーマを設け、教科横断的な視点で授業研究、相互観察を行った。</p> <p>・研究協議会で教科の見解を全体でシェアし授業改善を進めた。</p> <p>・グローバルキャンプ、ワールドカフェの協議課題をSDGに求めるなど、社会との接続を意識した討論を行った。県内参加高校、人数が1.5倍に増加した。</p> <p>・総合的な探究の時間の組織的な指導方法について検討した。</p>	<p>①・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、単位制の利点を生かして教科横断的な学びの科目設定、フィールドの整理を行う。</p> <p>・学力向上・進路実現に資する履修指導への工夫を検討する。</p> <p>・新学習指導要領実施に向けてセメスター制の整理を全体の中で進める。</p> <p>②・授業と行事のカリキュラムマネジメントを推進し、目標の精査と手立ての関連を強化する。</p> <p>・外部知見を活用した研修会を行い、課題解決力・思考力育成の指導方法を研究する。</p> <p>・課題解決力・思考力育成のカリキュラム構築と指導方法実践のサイクルを回す。</p>	<p>①・普通科と舞台芸術科とが相互に刺激しあって学べる教育課程編成が評価できる。</p> <p>・4年間の目標である「生徒の学習意欲と学力向上」がどの程度達成されたかが重要である。</p> <p>②・グローバルな問題意識育成を念頭に教科横断的な取り組みを進めている点は評価できる。英語教育については内容と言葉の両立を図り豊かな語学教育を目指してほしい。</p> <p>・グローバルキャンプ、ワールドカフェ等で社会との接続を意識するためテーマをSDGSに求めたこと、「多面的・多角的視点からなる批判的思考力・協働的問題解決能力の育成をめざす」ことは、心豊かなリーダーの育成において大変有意義である。これからの社会は、共生協働の精神が人間力の中心的要素であると指摘する識者もいる。「なぜか？」に気づかせる双方向的な授業実践の更なる充実を期待する。</p> <p>・総合的な探究の時間は教育効果が高く顕著な成果が窺える一方で、停滞気味の生徒に対する指導の充実を期待する。</p> <p>・グローバル教育研究推進校の取組で外部講師による講演から刺激を受け、生徒の成長が見て取れた。</p>	<p>①・現在の教育課程の課題を一部改善し、舞台芸術科と普通科生徒が刺激し合っって学べる教育課程を編成した。</p> <p>・新学習指導要領を踏まえ教科横断的な視点で教育課程を整理、編成する必要がある。</p> <p>・学習意欲と学力の向上のための指導方法研究と客観的評価の設定が課題である。</p> <p>②・学校で統一した研究テーマを設け、教科横断的な視点で授業研究・研究協議会を実施したことにより、組織的な授業改善が開始した。学力観、評価方法、指導方法研究と実践を迅速に行う必要がある。</p> <p>・グローバルキャンプ、ワールドカフェ等のテーマをSDGに求めるなど、社会との接続を意識し、教科横断的な思考を育成した。</p> <p>・総合的な探究の時間の組織的な指導方法について検討した。指導方法を更に研究する必要がある。</p> <p>・外部教育力の活用は効果的であった。講演会と他の教育活動のリンクが必要である。</p>	<p>①・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、単位制の利点を生かして教科横断的な学びの科目設定、フィールドの整理を行い、セメスター制の検討を進める。</p> <p>・学力向上・進路実現に資する履修指導の方法と学習指導・進路指導方法を検討し実践する。</p> <p>②・学力観、授業改善の方向性、評価方法、指導法の研究を組織的に行う。</p> <p>・「なぜか？」を考える双方向的な授業実践を推進し、深い思考力を育成する。</p> <p>・授業と他の教育活動のカリキュラムマネジメントを推進し課題解決力・思考力育成のカリキュラム構築と指導方法実践のサイクルを回す。</p> <p>・グローバル教育研究推進校としての取組、教科学習、探究の時間をリンクさせ、SDGSをテーマとするなど社会で活用できる知識、思考力を育成する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>生徒一人ひとりの個性を伸ばすことができる教育支援を実践し、生徒にしっかり向き合った教育体制の充実を図る。</p>	<p>①・教育相談コーディネーターを中心として、組織的にきめ細かい教育相談体制を整備する。</p> <p>・いじめ防止の効果的な啓発活動を行う。</p> <p>②グローバルキャンプやワールドカフェ等の国際的な行事の内容を見直し、生徒の主体的な学びに結びつくように改善を図る。</p>	<p>①・年に2回専門家による研修講座を行う。</p> <p>・月に一度、教育相談コア会議を開催し、さらに、ケース会議を通じて、情報を職員全体で共有する。</p> <p>・SNSによるいじめ防止のための啓発活動を行う。</p> <p>・年に2回のアンケートを効果的にフィードバックする。</p> <p>②行事の運営が生徒を中心としたものとなるよう事前準備、事後学習の在り方を検討していく。</p>	<p>①・専門家による研修会を年2回以上実施できたか。</p> <p>・月に一度のコア会議と必要なケース会議は開催したか。</p> <p>・いじめ防止の啓発活動を行えたか。</p> <p>・アンケートは効果的にフィードバックできたか。</p> <p>②グローバルキャンプの運営を生徒中心に進められる支援ができたか。</p>	<p>①・横浜市大等による研修会を3回実施した。</p> <p>・月に一度のコア会議と必要なケース会議を専門家と連携して開催し、生徒個々の状況に応じた支援を行った。</p> <p>・SNSに関する啓発取り組みはしなかった。</p> <p>②内容・協議の深化、指導方法について教員の指導方法研究、運営方法検討を進める。</p>	<p>①・教育相談体制について、収集した情報をもとに支援の手立てを確実に決め、全職員の理解・協力体制を強化する。</p> <p>・単位制における日常の生徒指導・支援体制の組織的取組を再構築する。</p> <p>・SNSのトラブル、いじめの日常的気づきを含め生徒の状況把握のための研修会を行う。</p> <p>②内容・協議の深化、指導方法について教員の指導方法研究、運営方法検討を進める。</p>	<p>①専門家による研修会、コア会議、アンケートの活用は実施されている。</p> <p>・SNSの研修活動は実施できなかったが、外部専門家の協力を得て行うとよい。</p> <p>②引き続き生徒の主体性を引き出してほしい。</p>	<p>①・専門家による研修会、コア会議等を活用できた。個々の支援とは別に組織的に生きる力を育む教育活動が必要である。</p> <p>・いじめアンケートを改善し迅速な対応に努めたが、組織的な取り組みに課題を残した。SNSの啓発活動は実施しなかった。今後、外部専門家の協力を得て行いたい。</p> <p>②生徒中心で運営することができたが、内容の精選、協議の深まり、スケジュール管理等に課題を残した。</p>	<p>①・単位制における日常の生徒指導・支援について研修を多面的に行い、組織的取組みの再構築と、生きる力を育む組織的指導と教育活動の展開を図る。</p> <p>・SNSに関する効果的な指導を検討し実践する。</p> <p>②・生徒の主体性育成は、教科活動、教科外活動の随所で促進をしていく。</p> <p>・教育活動すべてにおいて、目標設定と適切な指導方法等を企画書として共有し、教育活動のPDCAサイクルを回していく。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定) (平成31年度改定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月30日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化した進路支援の流れを作り、生徒が自らの将来像を見据えて適切な時期に目標を定められるよう情報提供を行い、多様で主体的な進路選択を促進する。	①自己目標を適切な時期に定められるよう働きかける。 ②指導方法を蓄積し一人ひとりに合った進路設計を支援する。	①年間を通して各活動により得られた能力を自覚させ、自己発見に繋げる。 ②・ガイダンスルームの自習環境を整える。 ・進路情報を整理した上で生徒に情報を周知し、生徒のガイダンスルームへの来室頻度を高める。	①生徒が、適切な時期に自己目標を定めることができたか。 ・自習環境を整えられたか。 ②・生徒の来室頻度を高めることができたか。	①定期テスト等の振り返り、スポーツ大会、オープンキャンパス等の振り返りを記録させ、自己目標設定への手立てとした。効果検証は行っていない。 ②ガイダンスルームの自習席を多く配置し、朝から放課後まで可能な範囲で開館時間を拡大した結果、利用生徒があった。	①・自学促進のため、動画ソフトツールを次年度1年次に導入し、生徒の第一志望実現率を高める。 ・学習状況把握のため学習支援ツールの確認テスト活用を1年次より開始する。 ・希望進路実現のための3年間の進路指導計画を抜本的に改善する。 ②ガイダンスルームの書籍充実、無線ネットワーク環境の構築、進路相談、学習指導の活性化を図る。	①②・自己目標設定、ガイダンスルーム利用促進に評価値するが、それらが4年間の目標を達成するに充分であるか。個人指導の充実、指導機会とサポートの充実等、次への効果検証をすべきである。 ・キャリアプランを時々振り返り、ブラッシュアップさせることが大切である。 ・高校段階はキャリア意識形成の最終段階であるので、生徒のキャリア意識の伸長に注視し必要に応じてアドバイスをする等、相談体制の充実を期待したい。	①各自目標設定への手立てとするために、テストと行事等の振り返りを各自記録させた。各自の目標設定への手かかりにどのような効果があったか検証できなかった。 ②ガイダンスルームの自習席配置、開館時間の拡大を行い、利用生徒が出てきた。	①・自己目標設定と各自の学力、意欲継続への指導計画について、学力向上とリンクさせた進路指導の3年間計画を再構築する。 ・自学自習ツール等を活用促進し、自学促進と定期的な客観的学力把握を行う。 ②・ガイダンスルームが進路相談、学習の場となるよう教員が積極的に関わる運営となるよう工夫する。 ・学習探究、目標設定、キャリア意識形成のため、高大接続プログラムを工夫し、生徒にとって実感のあるものにする。
4	地域等との協働	家庭や地域社会の教育力の活用を推進し協働することで信頼される学校づくりを推進する。	①地域と共にある学校づくりをすすめる。 ②連携大学や高校、生涯学習の制度を積極的に活用し、交流を深める。	①・隣接する小学校や高校及び特別支援学校と連携した活動を行う。 ・学校行事や防災活動を通じて神奈川県近隣住民との連携を図る。 ・パートナーズ(PTA)や同窓会と連携を図る。 ②単位互換制度等の各種制度の活用促進を努める。また、連携大学等との交流の中で今後の高大接続改革の情報収集に努める。	①・各学校との連携が図れたか。 ・防災活動を適切に行い、地域住民との交流により理解が深められたか。 ・パートナーズ(PTA)や同窓会と効果的に連携を行えたか。 ②各種制度、情報等を生徒に提供できたか、また、職員間で共有することができたか。	①・部活動、生徒会等で各学校と連携を図った。神奈川県地域振興課主催の清掃活動に、全クラス代表が協力した。 ・本校防災訓練地域住民が参加したが交流が行わなかった。 ・パートナーズ(PTA)や同窓会と連携し、効果的に学校行事等を行えた。 ②・高大接続情報を職員間で共有し、必要な情報を生徒に提供した。	①・国際支援部のリサイクル活動、ESSの小学生への英語活動、吹奏楽部の地域演奏を継続し、更に多くの生徒が関わられるよう情報提供をする。 ・隣接する小学校や高校及び特別支援学校と今後とも連携した活動を行う。 ・地域と連携した防災活動について、生徒に主体的に考えさせる。 ②・高大接続改革の情報収集に努め、効果的な各種制度の整理および活用促進方法の検討を続ける。 ・大学、NPO等との効果的な連携方法を検討する。	①・地域社会等との協働、異世代間の交流は、社会との関わりを認識し他者への共感性を育むことのできる良い機会であり、多くの交流が実現することを望みたい。 ・学校開催の「卒業生と語る会」とパートナーズ「進路を考える会」を統合し、保護者・教員とも効率化を図れた。 ・繰越金問題については、会費の適正化と予算の立て方が課題であり、決算前の予算消化状況把握などの即時チェックを行うような工夫が必要である。 ・地域と連携したイベント等を行い「地域と共にある学校づくり」への取り組みが進められている。 ②・具体的に高大接続プログラムを利用した生徒数、4年間の進歩率、生徒への教育的効果とその満足度などが確認できると良い。	①・部活動、生徒会等で各学校と連携を図った。神奈川県地域振興課主催の清掃活動に、全クラス代表が協力した。 ・本校防災訓練地域住民が参加したが交流が行わなかった。 ・パートナーズ(PTA)や同窓会と連携し、効果的に学校行事等を行えた。 ②・高大接続情報を職員間で共有し、必要な情報を生徒に提供した。	①・異世代間交流、地域社会との協働を多様な局面で促進していく。 ・パートナーズ(PTA)や同窓会と効果的に連携し、生徒の教育活動を活性化させる。 ②・高大接続、社会の教育力活用の工夫を検討する。
5	学校管理 学校運営	社会の変化に対応し、意欲的に教育の課題に取り組む学校体制の充実を図る。	①教育を取り巻く現代的な課題や情報を共有する。 ②プロジェクト等の課題を職員で共有し、迅速に課題の検討を行い、実践する。	①校外の情報収集に努め、復命研修を行う。 ②・プロジェクトの情報提供、意見交換を活性化させる。 ・教育活動をスクラップアンドビルドの視点で整理する。	①校外の情報収集に努め、復命研修を行ったか。 ②・プロジェクトの情報提供、意見交換を活性化させたか。 ・教育活動をスクラップアンドビルドの視点で整理したか。	①・QMS、クラウドブックの復命研修を計3回実施した。60人参加。 ・改修されたコンピューター教室の活用研修を1回実施した。50人参加。 ②学校改革プロジェクトチームが年間教育計画を大幅に見直し改善した。姉妹校交流も効果的な活動に改善した。	①・BYOD整備とGoogleフォームの活用を推進する。 ②・研修旅行、個別選択学習、姉妹校交流等の内容・運用を再検討する。 ・教科指導、事前学習、テーマ学習、進路指導など学校全体のカリキュラムマネジメントを行う。 ・職員の情報共有、会議等を組織的、合理的に追求する。 ・舞台芸術科開設にあたり全職員の理解促進と業務分担を行い、当事者意識を高める。	①校外の情報収集が進んでいる。 ②学校改革プロジェクトチームが年間教育計画を大幅に改善した点に評価したい。今後も引き続き風通しよく情報交換と意見交換を行い、改革を進めていきたい。	①ICT環境の整備をできる範囲で進めた。研修会も開催できた。授業への活用、多面的な活用が課題である。 ②現代的な教育の状況収集と課題把握、想定外への迅速かつ創造的な対応力を組織的に向上させる必要がある。	①BYOD整備とGoogleフォームの活用を推進する。 ②・研修旅行、個別選択学習、姉妹校交流等の内容・運用を再検討する。 ・教科指導、事前学習、テーマ学習、進路指導など学校全体のカリキュラムマネジメントを行う。 ・教育力向上、働き方改革の両面で学校運営を見直す。 ・閉庁日を5日間設定する。